

項目	説明	
試料・情報の	研究課題名	胃癌患者の検体を用いた高度リンパ節転移の術前補助診断法の構築
利用目的及び	研究対象者	胃癌と診断された患者さんのうち、2010年1月から2020年12月の間に神奈川県立がんセンターで包括同意をいただき、胃切除術を受けられた方
利用方法	研究目的	進行胃癌の患者さんにおいて、高度リンパ節転移がある場合、肉眼的に治癒的な切除できても、治療成績は良くありません。これは、手術で取ることができない目に見えない微小転移が存在する可能性が示唆されています。もし高度リンパ節転移が術前に診断できれば、そのような患者さんには、術前に化学療法を行って目に見えない微小な転移を殺した後に手術を行うことで、治療成績の向上が期待できると考えられますが、高度リンパ節転移を正しく診断することは、困難なのが現状です。そこで、われわれは、腫瘍から分泌されるタンパク質の中で、胃癌の高度リンパ節転移に関与するタンパク質が存在すると仮定し、従来の術前診断法とともに術前の胃癌生検検体のタンパク質の発現を評価することで、高度リンパ節転移の診断能の向上を目指しています。
	研究方法	患者さんの胃切除後の標本を用いて、52種類のタンパク候補の免疫染色を行い、高度リンパ節転移を拾い上げることのできるタンパク質を同定します。次に術前に内視鏡検査で行った生検検体の標本を用いて、これらのたんぱく質の免疫染色を行い、術前生検検体のタンパク質の発現の評価によって、術前高度リンパ節転移能が向上するかを検証します。
	個人情報保護	対象となる患者さんの診療情報には個人情報が含まれますが、氏名や住所などの情報を削り、容易に個人を特定できないように研究用の番号（識別コード）で管理します。個人と識別コードを照合できるようにする対応表を作成しますが、パスワードロックや鍵をかけて厳重に保管し、院外へ提供することはありません。
	研究期間	西暦 2026年3月24日～西暦 2029年3月31日
	利用又は提供を開始する時期	[X]総長が研究実施を許可した日 []西暦 年 月 日頃（研究の進捗によって前後いたします）
利用する試料・情報の項目（チェック[X]が入った項目を利用します）	[X]試料:	[]血漿、[]血清、[]全血、[]末梢血から抽出したDNA、 [X]病理検体(具体的に記載: <u>胃癌切除標本、術前胃癌生検検体</u>)、 []尿、[]糞便、[]唾液、[]胸水、[]腹水、[]脳脊髄液、 []毛髪、[]その他(具体的に記載: <u> </u>)
	[X]情報:	[X]診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、[X]年齢、[]生年月日、[X]性別、[X]既往歴、[X]併存疾患、[]外来日・入院日・退院日、[]臨床検査値、[X]放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、[]臨床所見・経過（予後追跡データを含む）、[]ゲノムデータ、[]看護記録、[]その他(具体的に記載: <u> </u>)
試料・情報を利用する者の範囲	当センター研究責任者	所属・氏名 副院長 大島 貴
	共同研究機関および責任者	なし
	その他の機関	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口	施設名・所属・氏名・連絡先 神奈川県立がんセンター・消化器外科・大島 貴。045-520-2222 利用停止のお申し出は2026年06月30日までをお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります	